

(目的) 疾病別標準ケア計画の作成は、患者ケア・薬学的管理に対する薬剤師の個人差をなくし、均一で質の高い薬剤管理指導業務の提供が可能となる。当院では問題解決指向で臨床業務を遂行するためにPOS (Problem Oriented System) を導入し薬剤管理指導業務を行っている。これまでに「肺炎」、「潰瘍性大腸炎」、「消化器癌」、「婦人科癌」に対する標準ケア計画を作成し薬剤師間での業務内容の統一を図るよう努めている。今回、带状疱疹に対する標準ケア計画を作成するとともに業務効率化のためのチェックシートなどを検討したので報告する。

(方法) 国内および当院で実施されている带状疱疹に対する治療法を調査するとともに、国内外の薬学的管理に関するエビデンスを収集した。これらの情報に基づきPOSの手法を用いて、带状疱疹に対する標準ケア計画ならびに重要な要点をまとめたチェックシートを作成した。

(結果・考察) 带状疱疹に関する国内での治療法や院内における実際の治療法に基づき標準ケア計画を作成した。プロブレムは#1 既往歴、薬剤服用状況に関連した現症状および治療に与える影響、#2 知識不足：带状疱疹、#3 ノンコンプライアンス、#4 薬物治療管理：带状疱疹、#5 相互作用、#6 合併症、#7 退院後の自己管理の7つに分類した。抗ウイルス剤に関しては、アシクロビル、塩酸バラシクロビル、ビダラビンに限定し標準ケア計画ならびにチェックシートを作成した。さらに入院から退院までの業務を時系列とした薬剤管理指導記録用紙ならびに検査値や副作用を記載したモニタリングシートを作成した。带状疱疹の治療に際し、標準的な薬物療法を作成しその経過をモニターすることは、業務の効率化ならびに経済面からも必要不可欠と考える。今後は構築した薬学的管理手法を臨床適用し有用性の評価を検討し、薬剤管理指導業務の効率化を図りたい。